

令和元年 9 月 4 日

ウレタンフォーム工業会専務理事	平松 利夫 様
(株)ブリヂストン加工品新事業開発室課長代理	中西 貴浩 様
(株)ロマンス小杉マーケティング部MD	引地 信之 様 (大阪TV会議参加)
西川(株)大阪商品グループ第2部第2課	山田 善久 様 (大阪TV会議参加)
西川(株)東京オフィス品質管理室室長	志村 洋二 様
(一財)ボーケン東京生活用品試験センター	末永 尚弘 様
*オブザーバー	
西川(株)品質管理部部長	藤田 貢 様 (大阪TV会議参加)
(一社)日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良 事務局 池田 努

JBA: (一社)日本寝具寝装品協会業種別委員会 ウレタン・敷部会
部会長 坂井 史治

JBA 第 6 期 : 第 2 回ウレタン・敷部会 議事録

1. 開催日時 令和元年 9 月 2 日 (月) 午後 4 時 00 分 ~ 午後 6 時 00 分
2. 開催場所 東京 : (一社)日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所 ☎03-6661-0213
関西 : 西川(株)大阪オフィス TV会議室 ☎06-6262-9230

3. 議 題

(1) JBAラベル表示内容について

<体圧分散について>

(事務局提案)

体圧分散図を閲覧できるQRコード付記から、他の項目と同様に数値評価表示への変更提案及び意見聴取の要望が出された。

(委員意見)

- ・ 2社の試験機の色合せは出来ているが、生データでの換算調整は出来ていない。
- ・ バランスタイプでは全体評価となってしまう、商品の特徴は表示できない。
- ・ 図表示はある程度のバラツキはあるものの、消費者の購買目安として有効だとの考えで検討を進めてきたので、急遽の変更は難しいと思う。
- ・ 数値評価への変更には検討課題が多すぎる。
- ・ 改善率での評価は出来るのではないだろうか。
(例) 敷きふとん無し(床直接)又は基準品上での体圧とマットレス上での体圧との改善率を比較する方法
- ・ 体圧分散図上の設置面積に対する色の割合で評価する方法なら数値評価が可能ではないだろうか。
- ・ 数値評価を行うには、褥瘡学会の基準なども考慮すべきではないか。

*現在、学会HP等には基準値の記載はされていない。(以前は記載あり)

(結論)

- ・現状では、体圧分散性を「数値評価」で表記することは時期尚早と考える。
ただし、他の性能表示と同様に「数値評価」出来るように今後も検討を進めていく。

<寝返り性の評価基準について>

- 1) 現行の評価基準の一部変更について
網掛け部分の評価基準の変更について了承された。

(*数字は星数)

		反発性			
		低反発	一般	高弾性	
硬さ	やわらかめ	1	2	2	
	ふつう	2	2	3	
	かため	ややかため	2	3	3
		かため	3→2	3	4
		超かため	3	4→3	4

(2) 反発性について

<「高反発」呼称について>

ウレタンフォーム工業会では、加盟企業の中で「高反発」と「高弾性」を区別している企業は1社のみであり、他の企業は「高弾性」の呼称を用いている。「高反発」の区分はJBA独自の基準として検討を進めてほしい、との意見があった。

<反発性の試験方法について>

「寝返り性」の評価方法として、「硬さ」と「反発性」の総合評価としている。

反発性試験は製品試験ではなく部材で試験を行うため、積層品で最上層部に低反発ウレタンを使用している場合、使用する低反発素材の厚さに係わらず、反発性=低反発となり、寝返り性の最高評価は[★3]までしかならず、実情と異なる可能性が危惧される。

従来の部材(5cm厚)での試験か、又は、同一構造の積層試験片(プロファイルカットなし)での試験とすべきかを、確認試験を行い判断することとした。

(試験内容)

試験片) ベース : 超かため 5cm

トッパー : 低反発 1cm、2cm、3cm、4cm、5cm

(試験片サイズ) 10cm×10cm

(試験片数) ベース×1、トッパー×各3 (×資料提供企業数)

*トッパーはウレタン各社に資料提供を依頼

試験方法)

ベース(超かため)の上にトッパー(低反発)を重ねた状態で反発性試験を行い、トッパーの厚みによるベースの影響の有無を試験する。

(3) その他

「寝返り性」及び「快適性」表現の「優良誤認」抵触に関しては、7月23日に消費者庁を訪問、特段の指摘は無かったことから問題は無いとの認識である旨の報告が事務局よりあった。

以上